

九鬼教授の逝去

本會委員文學部哲學科教授文學博士九鬼周造氏は四月十日以來京都府立醫科大學病院に入院加療中のところ、病勢あらたまり五月六日午後十一時五十分遂に逝去せらる。同八日密葬を終へ、十一日午後二時より三時まで鹿ヶ谷法然院に於て告別式を行ふ。博士の明徹獨自の論究には益々期待せらるゝもの多かりしに、遽に白玉樓中の人となられしこと痛惜に堪へず。こゝに謹んで哀悼の意を表す。

故九鬼博士略歴並業績

明治二十一年二月十五日 東京市芝區芝公園十四號十九番地に生る。

同 三十八年三月 東京高等師範學校附屬中學校卒業。

同 九月 第一高等學校入學。

同 四十二年七月 卒業。

同 九月 東京帝國大學文科大學入學。

同 四十五年七月 卒業。

大正九年九月 東京帝國大學大學院入學。

同 十年七月 退學。

同 文部省囑託。

同 十月 歐羅巴へ遊學。獨逸ハイデルベルク、フライブルク、マールブルヒ諸大學及び佛蘭西巴里ソルボンヌ

大學にて哲學研究。

同 十四年四月 「巴里心景」匿名S・K(明星)

同 九月 「巴里小曲」S・K(明星)

同 十二月 「巴里の窓」S・K(明星)

同 十五年一月 「巴里心景」S・K(明星)

同 十月 「巴里の寢言」匿名、小森鹿三(明星)

昭和二年四月 「破片」小森鹿三(明星)

同 三年 「Propos sur le temps. Paris, 1928. これの

内容は一九二八年八月十一日及び十七日、Pontignyに於

哲學研究 第三百三號

一〇四

つなれた講演' La notion du temps et la reprise sur le temps en orient. 及び L'Expression de l'infini dans l'aut japonais より成る。この講演は Correspondance de l'union pour la vérité. Mars-Avril 1929. に發表せられ、又 L'Expression は Cahier de l'étoile. janvier-Février 1929. にも掲載せられた。なほ La notion du temps に就ては「東洋的時間について」和久信章譯（禪學研究、昭和十一年十二月號）がある。

同 十二月 「Bergson au Japon」(Les Nouvelles Littéraires. 15. Décembre 1928.)

同 四年一月 歸朝。

同 四月 京都帝國大學文學部講師を囑託せらる。

同 五月 「時間の問題」(哲學雜誌)

同 五年一月 「ふきの構造」(思想)

同 三月二日 「佛蘭西哲學の特徴」(Caractères généraux de la philosophie française. 關西日佛學館講演第七號)講演、

同 三月 「押韻について」匿名、小森鹿三(冬柏)

同 十一月 『いきの構造』岩波書店發行。

同 六年四月 「形而上學時間」(朝永博士還曆記念哲學論文集)

同 十月十六・七日 「日本詩の押韻」(大阪朝日新聞)

同 七年十一月 文學博士の學位を授けらる。

同 「形式と實質」(雜誌)

同 八年三月 任京都帝國大學助教授、敍高等官五等

同 「實存の哲學」(岩波講座、哲學)

同 四月 敍從六位

同 九年六月二十三日—二十六日 「夢を語る」(東京朝日新聞)

同 十月 「我が人生觀」(理想)

同 十年三月 任京都帝國大學教授、敍高等官五等

哲學哲學史第四講座擔任を命ぜらる。

同 九月 敍高等官四等、敍正六位

同 十月六日 「松茸」(大阪朝日新聞)

同 十二月 『偶然性の問題』岩波書店發行

同 十一年二月 「偶然の諸相」(改造)

同 「藍碧の岸の思ひ出」(文藝春秋)

同 五月三日—六日 「外來諸所感」(東京朝日新聞)

同 五月十六・七日 「村上氏の批評に答ふ」(東京朝日新聞)

同 六月 「哲學私見」(理想)

同 七月 「祇園の枝垂櫻」(瓶史)

同 八月 「書齋漫筆」(文藝新秋)

同 九月 「私に力を與へしものは何か」(回答(實業之世界))

同

同 十月 「如是我觀太閤秀吉」(回答(歴史公論))

同 十一月二十五日 「日本的性格に就て」(龍谷大學新聞)

同 十二年一月一日 「青海波」(大阪朝日新聞)

- 同 二月 「日本の性格」(思想)
- 同 四月 「風流に關する一考察」(俳句研究)
- 同 五月 「山部赤人短歌の批評」(文學)
- 同 七月十五—十七日 「一高時代の舊友」(東京朝日新聞)
- 同 七月 「飛驒の大杉」(瓶史)
- 同 十月 「時局の感想」(文藝春秋)
- 同 同十三年二月 「京の冬」短歌(文藝)
- 同 三月 「自分の苗字」(文藝春秋)
- 同 「巴里にありし頃」短歌(新萬葉集卷三)
- 同 四月 陸敘高等官三等 敘從五位
- 同 「藝術と生活との融合—新萬葉集卷二の感想—」(短歌研究)
- 同 五月 「情緒の系圖—歌を手引として—」(中央公論)
- 同 十月 「人間學とは何か」(人間學講座) 理想社發行
- 同 同十四年二月 「驚きの情と偶然性」(哲學研究)
- 同 四月 「偶然と驚き」(ラヂオ講演・講座)
- 同 七月 滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜらる。
- 同 八月 出發。
- 同 九月 歸朝。
- 同 『人間と賞存』(哲學論文集) 岩波書店發行
- 同 同十二月二十九日 「二千六百年の前夜—婦人へ贈る言葉—」(大阪朝日新聞)
- 同 同十五年十一月 「文學の形而上學」(文學概論) 河出書房發行

同十六年二月五日 「ベルグソンの思ひ出」(京大新聞) 談

同 三、四月 「岩下壯一君の思ひ出」(カトリック研究)

同 三月 「回想のアンリ、ベルグソン」(理想)

同 同五月六日 午後十一時五十分逝去。

尚『文藝論』(文藝論文集)が岩波書店より近刊の豫定である。また博士の著作の多くのものは公刊後訂正、加筆されてゐることをここに附記しておく。